

2023二葉フェスタを開催しました！

11月25日（土）に、PTA本部主催の「二葉フェスタ」を開催しました。

3学級が学級閉鎖している状況ではありましたが、今年度は458人もの子どもたちが参加。

混雑を避けるため、学年ごとに前後半に分けて実施したほか、ボランティア保護者の皆さん、おやじの会の尽力のおかげで大きな混乱、混雑なく運営することができました。

今年のフェスタで提供したのは、ピンポンチャレンジ、射的、ナーフ（射的同様の銃型のおもちゃで、スポンジ製の球を的に向かって放つ遊び）、くるみぼたん製作とウッドチャーム作り、すきまあそびの6ブース。子どもたちによるリクエストで、校庭での長縄とび、段ボールジェンガも急遽登場しました。

各ブースでの様子は、最後に掲載していますので、ご覧ください。

フェスタ開催にあたって、当日の運営にご協力いただいた保護者の皆さん、帰宅時間が遅くなるために送迎にご協力いただいた保護者の皆さん、そして先生方、本当にありがとうございました。

残念ながら、学級閉鎖や個別の事情でフェスタに参加できなかった子どもたちには、担任の先生を通じておみやげを配布しました。ぜひ使ってくださいね。

来年度の二葉フェスタは体育館の改修工事に伴い、校庭使用への制限が見込まれます。今年度の運用から大きな変更があるかと思いますが、保護者の皆さん、先生方に知恵を借りながら、子どもたちの笑顔が見られる催しを実施できるよう努めますので、どうぞよろしく願いいたします。

最後に、来年度フェスタに際して、お願いがあります。

それは、準備段階からのボランティア協力です。

今年度は、フェスタに向けて以下のような準備をしました。

- ・帰宅時に渡すおみやげの袋づくり
- ・射的・ナーフの的づくり
- ・くるみぼたん用はぎれ布のカット
- ・ウッドチャーム用の麻ひもカット など

来年度の作業内容は未定ですが、ワイワイ話しながら作業を行い、途中入退場自由とするつもりです。10分だけのご参加でもご協力いただけましたら幸いです。

PTA組織の「専門部」を2022年度に廃止して以降、イベント準備の人手が激減し、現在は本部役員の10人で下準備を行っています。手が回らない部分も多いので、ぜひ多くの人に関わっていただき、意見を出し合いながら、良いイベントにしていきたいと思います。

何をやっているのか実態が見えづらい「PTA」の様子を感じていただける機会になるともお

もいますので、ご協力よろしくお願いいたします。

それでは、各ブースでの様子です。

## <受付>

事前準備（テーブル、椅子を校庭に並べる作業）は6年生の児童もお手伝いしてくれました。

ボランティアさんは、前半8人、後半7人にご協力いただき各学年のテーブルに2名ずつ。1年、2年生用にはテーブルを2台用意し混雑緩和に努めました。

子どもたちが早く集まってくれる様子からフェスタを心待ちにしていたことがわかり、こちらも嬉しくなりました。

参加費の100円をにぎりしめる児童に、クラス・名前・出席番号を伝えてもらい、参加費と引き換えに学年カラーのリストバンドを渡し、子どもたちは校内の好きなブースへと流れていきました。

受付が落ち着いてきた頃、ボランティアさんには校内のブースへ移動してもらう人、お土産を渡してもらう人に分かれていただきました。

校庭ではおやじの会が「巨大ジェンガ」を用意してくださり、身体の大きさほどもあるジェンガに子どもたちは大興奮。途中から長縄とびも加わり、帰ろうとしていた子どもたちも楽しそうな声に飛び入り参加。最後まで楽しめた様子でした。

帰る子どもたちにはリストバンドを外してもらい、引き換えにお土産を渡しました。

1年生の保護者の皆さん、お迎えのご協力、ありがとうございました。





## <ピンポンチャレンジ>

1～6年生のピンポンチャレンジ、射的が行われたせんだんは前半後半ともわいわい、がやがやと大賑わいでした。

ピンポンチャレンジはピンポン玉を投げてカップにいれるという単純なゲームでしたが意外に難しかったようです。腕に自信のありそうな高学年の男の子でも思ったような結果が出ず悔しがったり、低学年の女の子が3つも入ったと喜んだり、悲喜こもごもありましたが、そこは盛り上げ上手な先生やおやじの会、ボランティアさんからの「すごい!」「あ～、おいしい!」などの声かけでどの子も楽しく遊んでいました。

ピンポンチャレンジは今回のふたばフェスタで唯一、入ったボールの数によって賞品や参加賞がもらえるゲームだったので、ゲームのあとに一生懸命悩んで品物を選ぶ様子もとても可愛かったです。

そして、「おもちゃは家に帰ってから開けてね」「すぐにバッグにしまっただね」と伝えるとみんなすぐにバッグにしまってくれました。

片付けをした際におもちゃのゴミは出ていませんでした。しっかりルールが守られて素晴らしかったです!





## <射的>

ピンポンチャレンジ同様にせんだんで行われました。

子どもたちはカラフルなボーリングのピンや難易度の高いドラゴンの口、ブタさんの鼻の穴などそれぞれお気に入りの的に狙いを定めて挑戦していました。

レバーが重かったり、玉がうまく詰められなかったりと、難しいところはおやじの会やボランティアのみなさんに助けられました。

露店よりも多めの球数で挑戦できたので子どもたちも満足感があつたかと思います。

終わった後の球拾いが大変なピンポンチャレンジや射的ですが、今年は会場設営時におやじの会の方がバリケードを作ってくくださったので、玉が隙間に入ったり転がったりすることもなく後片付けも円滑に行うことができました。





## <ナーフ>

「二葉フェスタでしか遊ぶ機会がない」というナーフは今年度も大人気でした。

1、2年生は家庭科教室、3年～6年生は理科室で行いました。今年度は的の種類が増え、1回90秒の中で目当ての的を狙いました。

おやじの回、ボランティアの皆さんには時間計測や球拾い、球の補充などのお手伝いをさせていただきました。ありがとうございました！

## <ウッドチャーム>

クラフト制作の一つ、ウッドチャームの部屋では、低学年、高学年、各教室に分かれ、木製の丸型パーツにそれぞれ思い思い好きなものを描いて仕上げました。

ボランティアの皆さんには、訪れた子どもたちへのパーツ配布、座席への誘導、作業工程の簡単な説明と制作の見守りを行っていただきました。最後の紐通し、結ぶところが低学年生には少し難しかったようで、ボランティアの皆さんの手添えが必要となることもありました。

どちらの部屋も満席となることもしばしば。合間をみて、ボランティアの皆さんにも子どもたちと一緒に制作を楽しんでいただきました。子どもたちもボランティアの皆さんも絵が

とても上手で、お手伝いに来ていただいた図工の廣上先生も感動されていました。みんな素敵なチャームが出来上がりました。

早速、持っていたバッグに付けて飾りとして使う子やクリスマスのオーナメントとして作った子もいました。



## <くるみぼたん>

### 初！クラフト製作

ボランティアさんのお手伝い内容はパーツ配布、座席への誘導、作業工程の説明と制作の見守り、手伝いなど。

製作はまず生地選びから始まります。たくさんある生地の中からお気に入りを探し出します。自分たちの手で完成できる学年。思ったよりも力が必要だったり、難しかったりする工程があ

り、手助けが必要な学年。ボランティアさん、先生方が丁寧に手順を説明してくださり、一緒に作品を完成させることができました。校長先生もくるみぼたん製作に参加してくれました。

出来上がった品を手にした子どもたちの表情はとても愛らしく、「お家の人にお土産できたね～」など声掛けをすると笑顔がいっぱいになっていました。皆様のご協力により集まった「はぎれ」が子どもたちの笑顔につながり、ご協力いただきました皆さんに感謝いたします。

初めての試みのクラフトを通じて、子どもたちがどのような部分に手伝いが必要かを知ることができたので、今後の参考にしたいと思います。





## <すきまあそび>

すきまあそびの部屋では、けん玉、こま、プッシュポップなどで自由に遊んでもらいました。

射的やナーフ、クラフト制作に比べて、少し「華」に欠け、遊びに来てくれる子はいらなかな、と心配したのも束の間、何度でも自由に遊べるこの部屋は子どもたちで大賑わい。

ボランティアの保護者や先生には、けん玉やこま回しを急遽体得してもらい、遊びを伝えてもらうつもりでしたが、子どもたちの方がはるかに上手でビックリ！ある学童では、けん玉やこま遊びを取り入れているらしいので、その成果でしょうか。

リズムに乗ってけん玉をコンカン動かす様子や、こまの紐を華麗に操る子どもたちの様子に魅せられつつ、大人も子どもたちと一緒に遊べたのが嬉しかったです。

昭和生まれの私にとってプッシュポップは未知の遊びでしたが、いざ実物を見てみると「永遠に続けられるプチプチ潰し」ではありませんか！

シートに配置されている半球の膨らみをつぶしていく単純な遊びは現代っ子にも人気のようで、「どうして好きなの？」との問いに「ストレス解消（2年生男児）」との返答が。

現代を生きる厳しさも垣間見えた、すきまあそびの部屋でした。



